

高砂市民病院の現状と今後の運営について



◇現在、市民病院は経営改善に努めているが、経営状況は非常に厳しく赤字が続いている状況で、市から多額の補填をしている。特に今年はコロナの影響で収益が大きく減少している。

◇市民病院のこれからの役割は、東播磨の医療圏域で回復期医療を中心に担っていくこと。(高砂市民病院は、急性期・回復期・終末期の3つの機能を合わせ持つ東播磨唯一の病院)

◇市民の健康と命を守る市民病院は不可欠であり、維持していくためには、更なる経営改善が必要と考えている。

◇病院職員は、市民のために、コロナ対応においてもPCR検査や感染者対応など、日々頑張っている。

◇市民病院をご利用いただくために、皆さまからご意見をいただき、今後の経営改善につなげていく。

高砂市長 都倉 達殊

高砂市民病院の概要

1. 開設日 昭和40年1月20日

2. 現市民病院設立日 平成2年5月1日
(現市民病院: 築後30年)

3. 病床数

開設当初 350床

平成20年5月 290床

令和 2年4月 199床

・急性期病床 78床

・回復期病床 97床

・緩和ケア病床 18床

・人間ドック病床 6床

4. 医師数 24名(内科6名、外科4名、整形外科4名)

5. 診療科数 17診療科(休診中:精神科・産科)

<入院ができる診療科> ※カッコ書きは医師数

内科(6名)・外科(4名)整形外科(4名)・眼科(2名)
形成外科(2名)・皮膚科(1名)・脳神経外科(1名)
泌尿器科(1名)・麻酔科(1名)・緩和ケア内科(1名)

<外来診察だけの診療科>

循環器内科(木・金)・小児科(月～金)・婦人科(木)
耳鼻いんこう科(月・水・金)・放射線科(読影のみ)

【 地域包括ケア病棟（回復期）とは？ 】

地域包括ケア病棟は、厚生労働省が推進する地域包括ケアシステムを支える役割を担っております。

当院では、地域包括ケア病棟を2病棟（80床）と地域包括ケア病床（17床）の合計**97床**を有しています。

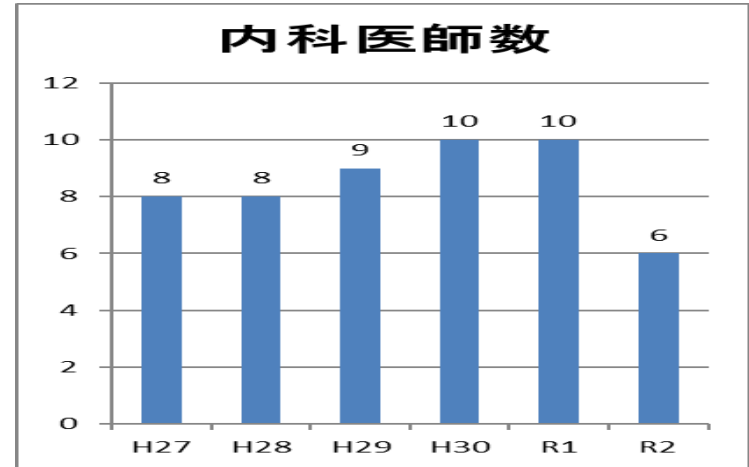
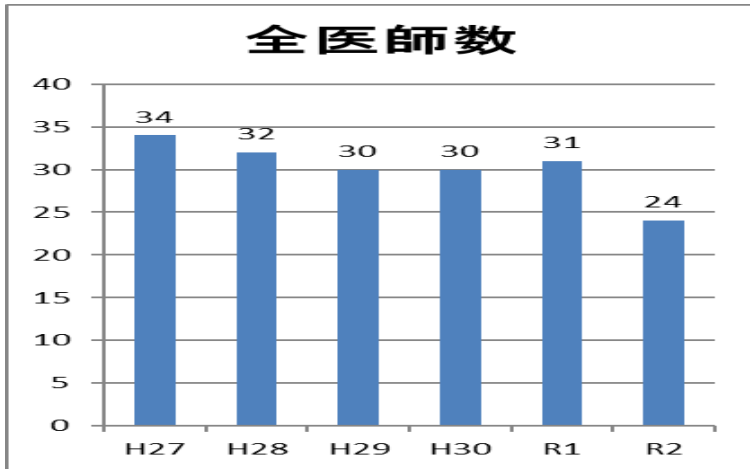
【対象患者さま】

- 病状は改善したが、もう少し治療・経過観察などが必要な方
- 在宅、施設で療養中に入院加療が必要になった方
- 在宅復帰に向けて、リハビリテーションが必要な方
- 在宅復帰や介護施設での療養に準備が必要な方
- 在宅介護を行なっている方の介護疲れなどで、短期間の入院を希望する患者さま（レスパイト入院）

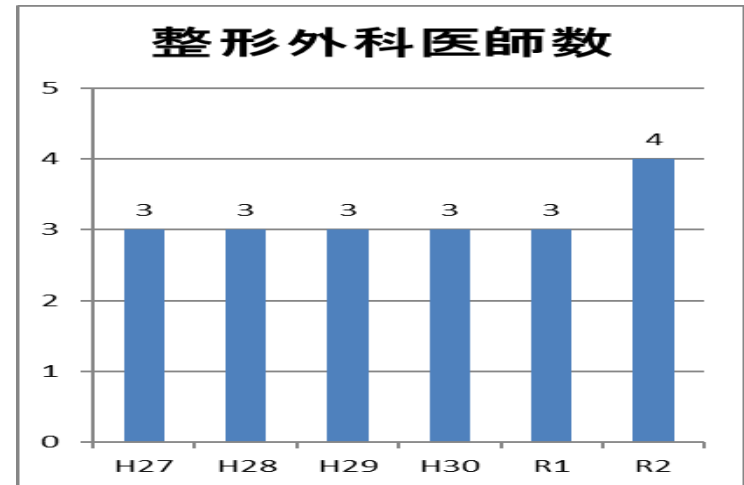
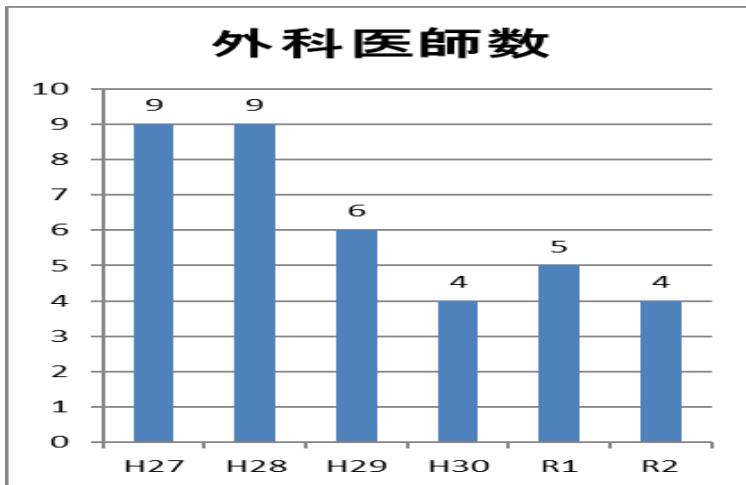
※ 入院（入棟）期間は病状にもよりますが、保険診療上**60日**が上限です

※ **他の急性期病院等で療養中**の患者さまや**自宅療養中**の患者さまも対象です。

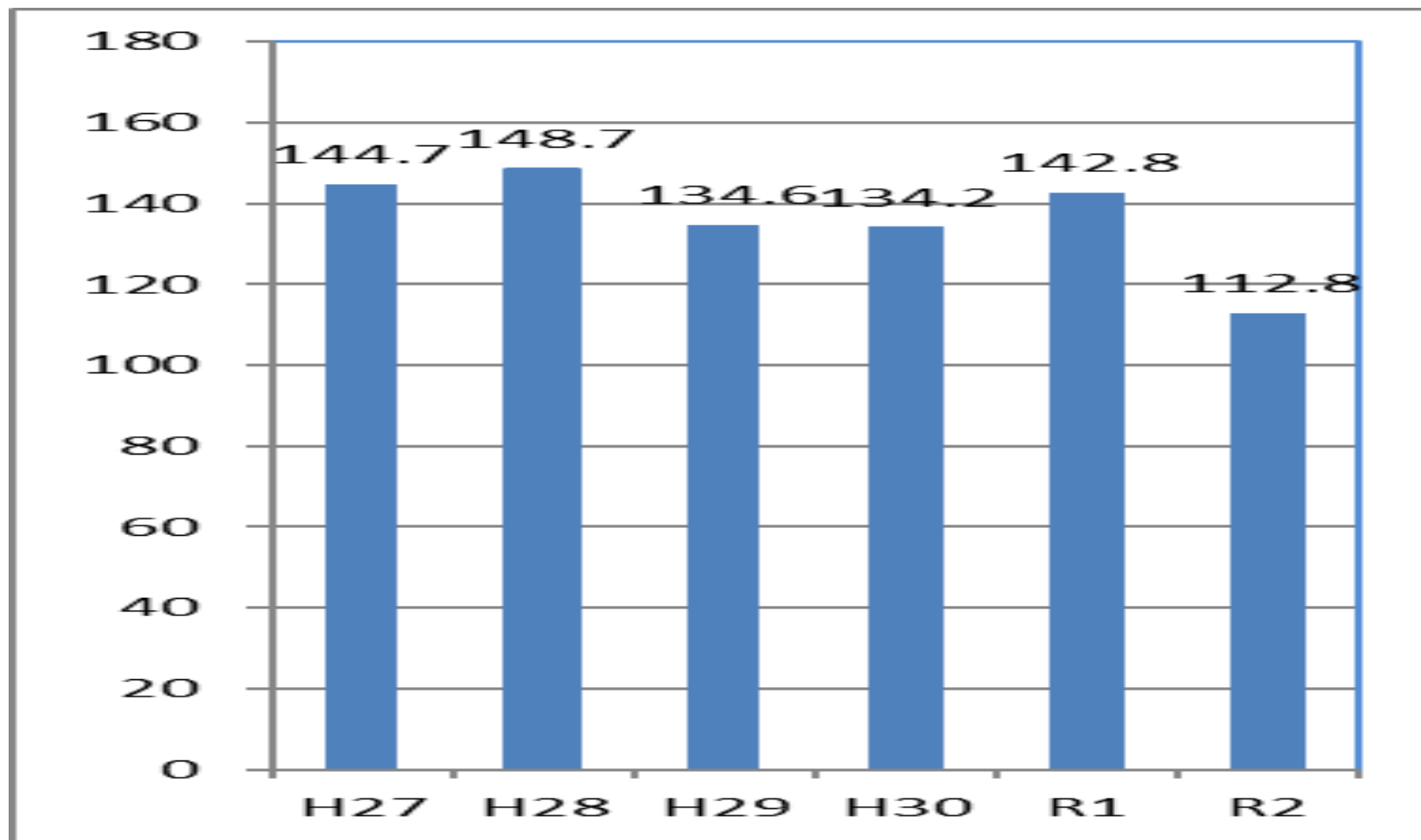
年次医師数(人)



※R3.1は7人、R3.2は8人体制となる予定

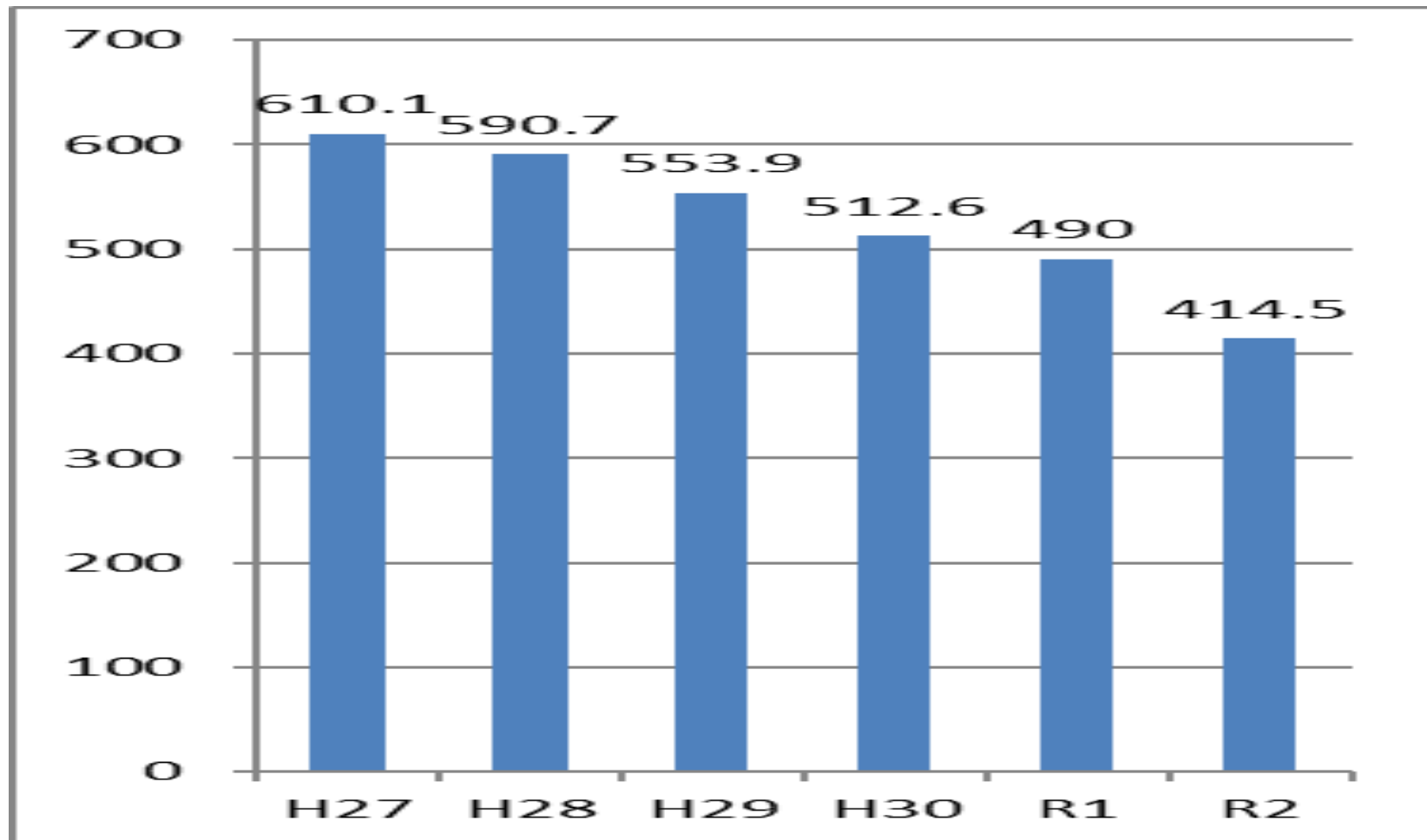


入院患者数(人／日)



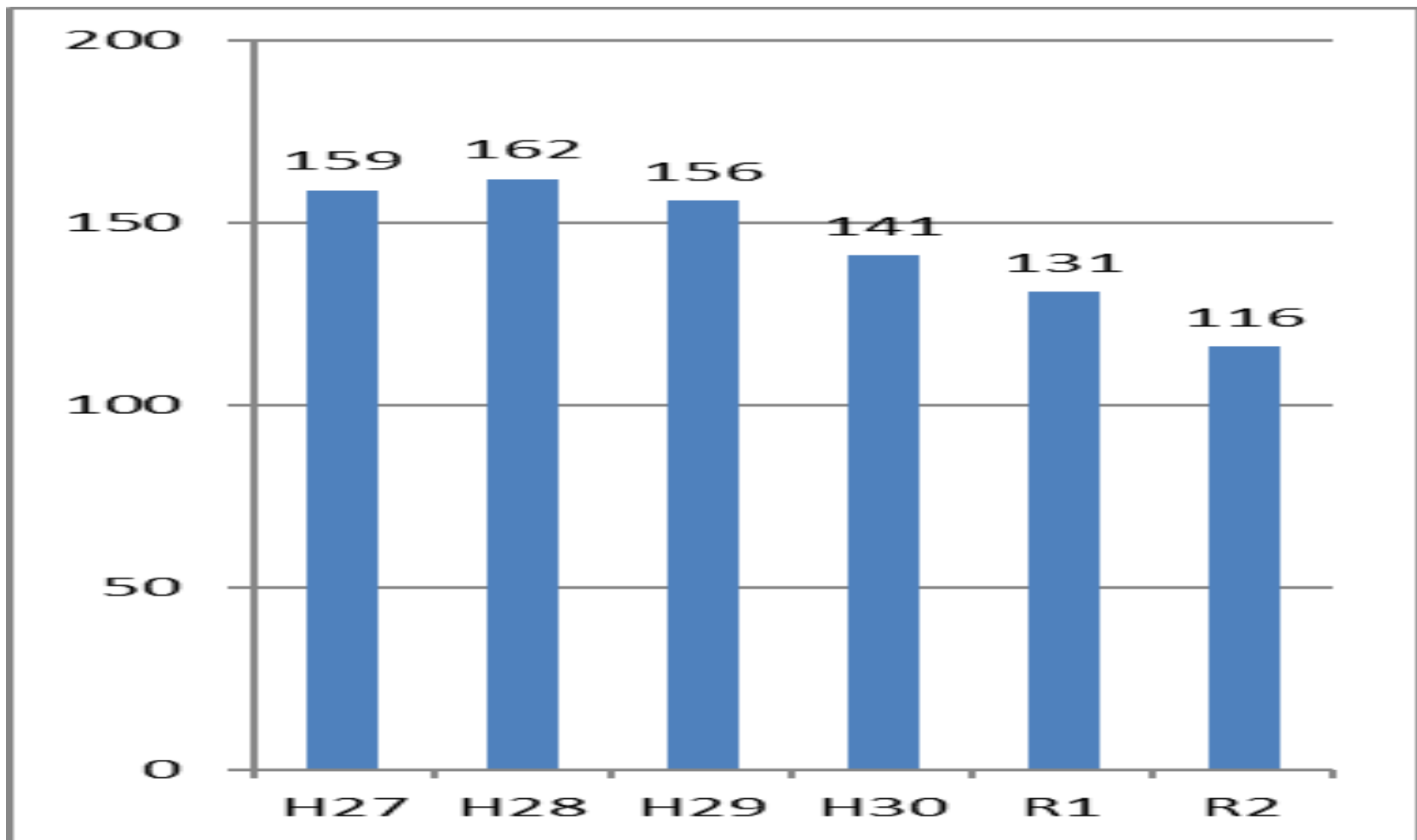
※ R2は9月までの実績によるもの

外来患者数(人/日)



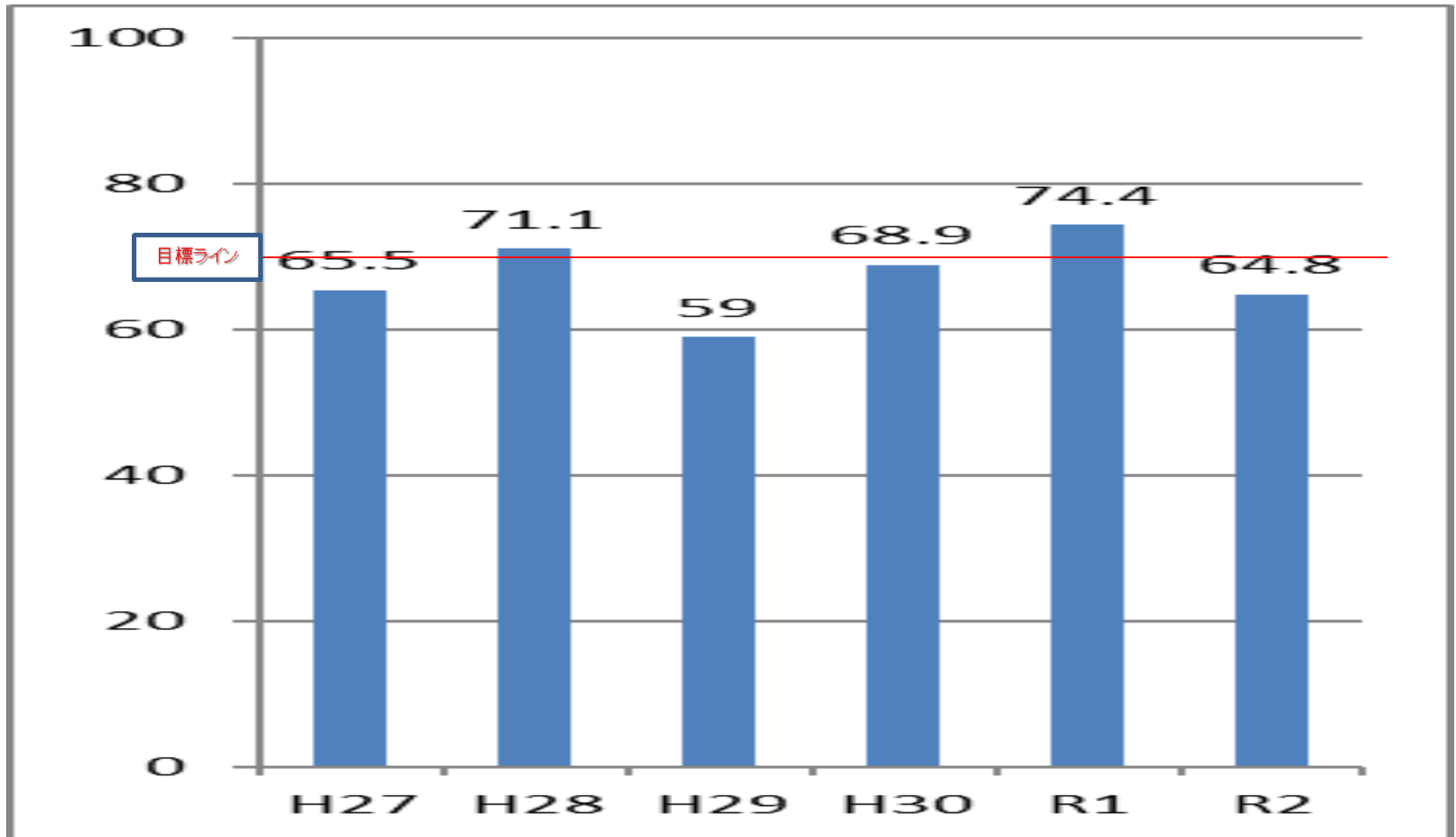
※ R2は9月までの実績によるもの

手術件数(件／月)



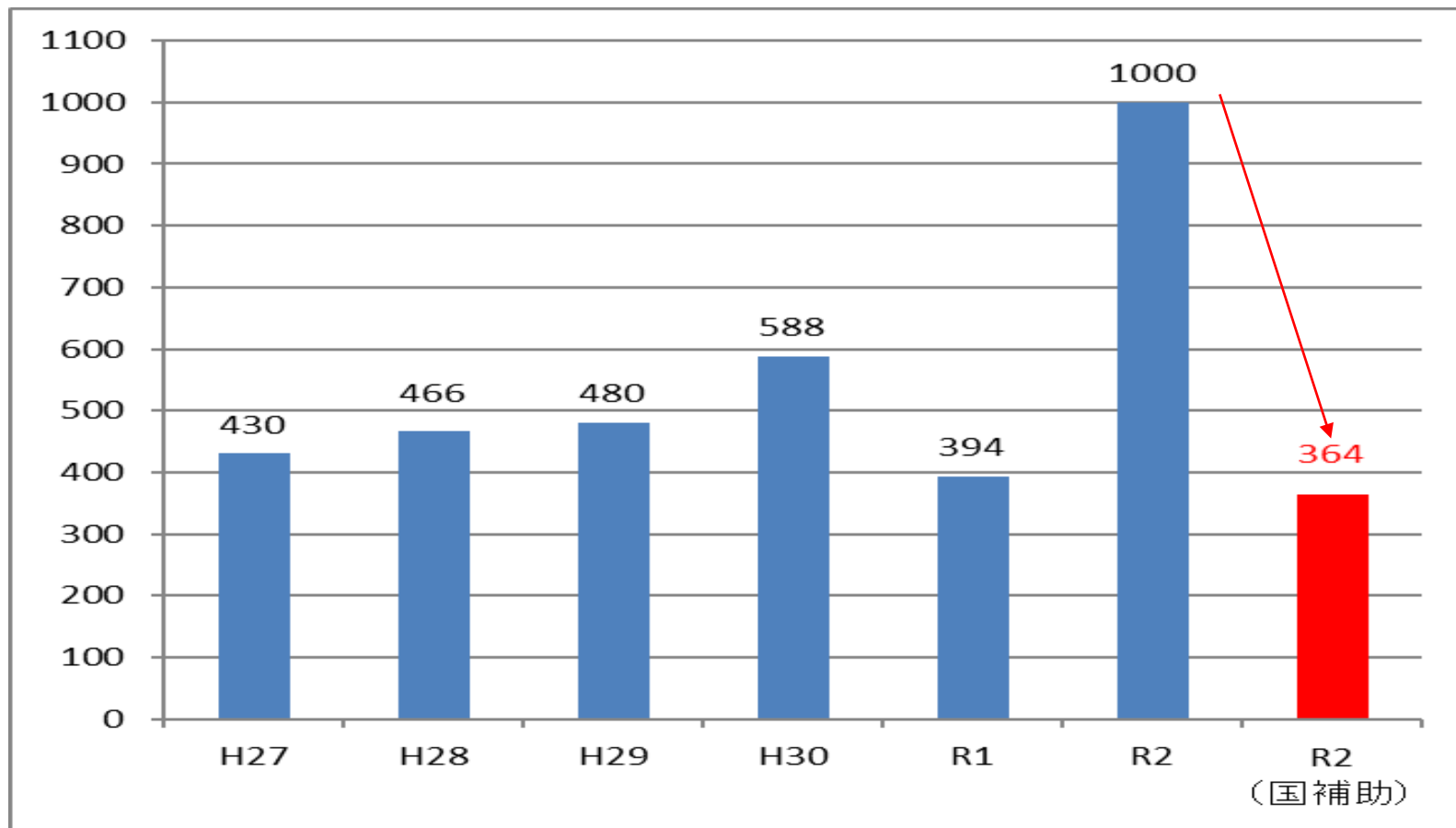
※ R2は9月までの実績によるもの

救急受入件数(件/月)



※ R2は9月までの実績によるもの

単年度資金不足額(百万円) (赤字補てん額)



※ R2(国補助)は、新型コロナウイルス感染症に対応する医療機関への支援金が支給された場合の赤字補てん見込額

市民病院実績データ分析のまとめ

＜医師数＞ 全医師数は過去最低の24名となっており、特に内科医師については前年度比較で4名減の6名体制となっている。

⇒ 内科医師については令和3年1月に1名増、2月にも1名増となり、8名体制となる。

＜入院患者数＞ 令和元年度は1日当たり142.8人と目標の150人にかなり、近づいたが、今年度は医師数の減少及び新型コロナウイルスの影響で112.8人と低調な入院患者数となっている。

⇒ 令和2年7月、8月は1日当たりの入院患者数は121人となっており、回復傾向となっている。

<外来患者数> 外来患者数は平成27年度から年々減少しており、今年度は414.5人と医師数の減少及び新型コロナウイルスの影響で平成27年度比較で約200人の減少となっている。

⇒ 令和2年9月は1日当たりの外来患者数は447.3人となっており、増加傾向となっている。

<手術件数> 平成28年度に加古川中央市民病院が開設して以来、手術件数は年々減少し、特にがん手術については激減している。

⇒ 市民病院でもがん手術(腹腔鏡手術も可能)は実施できるので、手術のご相談いただきたい。

＜救急受入件数＞ 令和元年度は月平均74.4件と近年で最高件数となったが、今年度は新型コロナウイルスの影響で前年度比較で約10件の減少となっている。

⇒ 診療時間内の救急患者の受入れは断らない方針であるので、緊急の場合は市民病院に依頼をさせていただきたい。

＜単年度資金不足額＞ 令和元年度は3億9400万円と過去5年間で一番少ない赤字補填額となったが、今年度は医師数の減少及び新型コロナウイルスの影響で約9億円の単年度資金不足額が見込まれる。しかし、市民病院は新型コロナウイルス感染対応を実施しているため、国からの補助金交付が見込まれており、その収益を加味すると3億6400万円の単年度資金不足額となる見込である。

⇒ 今回の市民説明会でも市民の皆さまのご意見をいただき、新たな再建計画を策定し、病院運営が持続可能な経営健全化を図りたい。

「高砂市民病院あり方検討委員会」

平成31年3月「高砂市民病院あり方検討委員会」答申
(答申内容)

1. 病院の病床機能整備
2. 医師に選ばれる病院
3. 神戸大学からの支援
4. 岡山大学からの支援
5. 今後のあり方
 - (1) 病院ビジョンの明確化
 - (2) 医師の意識改革
 - (3) 加古川中央市民病院との強固な連携

「高砂市民病院あり方検討委員会」答申に対する対応方針（抜粋）

1. 病院の病床機能の整備

地域の急性期2病棟・回復期2病棟（地域包括ケア病棟）・
終末期1病棟（緩和ケア病棟）の3機能を維持

2. 医師に選ばれる病院

- （1）病院ビジョンを明確化し、「面倒見のいい病院」へ
- （2）医師の意識改革を図り、病院ビジョンを遵守させる

3. 神戸大学からの支援

「医師に選ばれる病院」へ改革し、神戸大学からの信頼
回復に努める

4. 加古川中央市民病院との強固な連携

- （1）病院の機能分化・役割分担の明確化
- （2）人事交流

面倒見のいい病院とは

- 医師不足の中、診療時間内の救急搬送患者は断らない。
- 開業医からの紹介は必ず、受け入れる。
- 市民病院かかりつけ患者の急変時の対応は必ず受け入れる。
- 回復期病棟で在宅復帰支援に向けた、完全なサポートを実施
- 在宅復帰後の訪問看護師も派遣可能
- 介護福祉施設と連携し、施設入所患者の急変時はホットライン(院長・副院長が直接対応)で迅速な診察

「医療」と「介護」の橋渡し

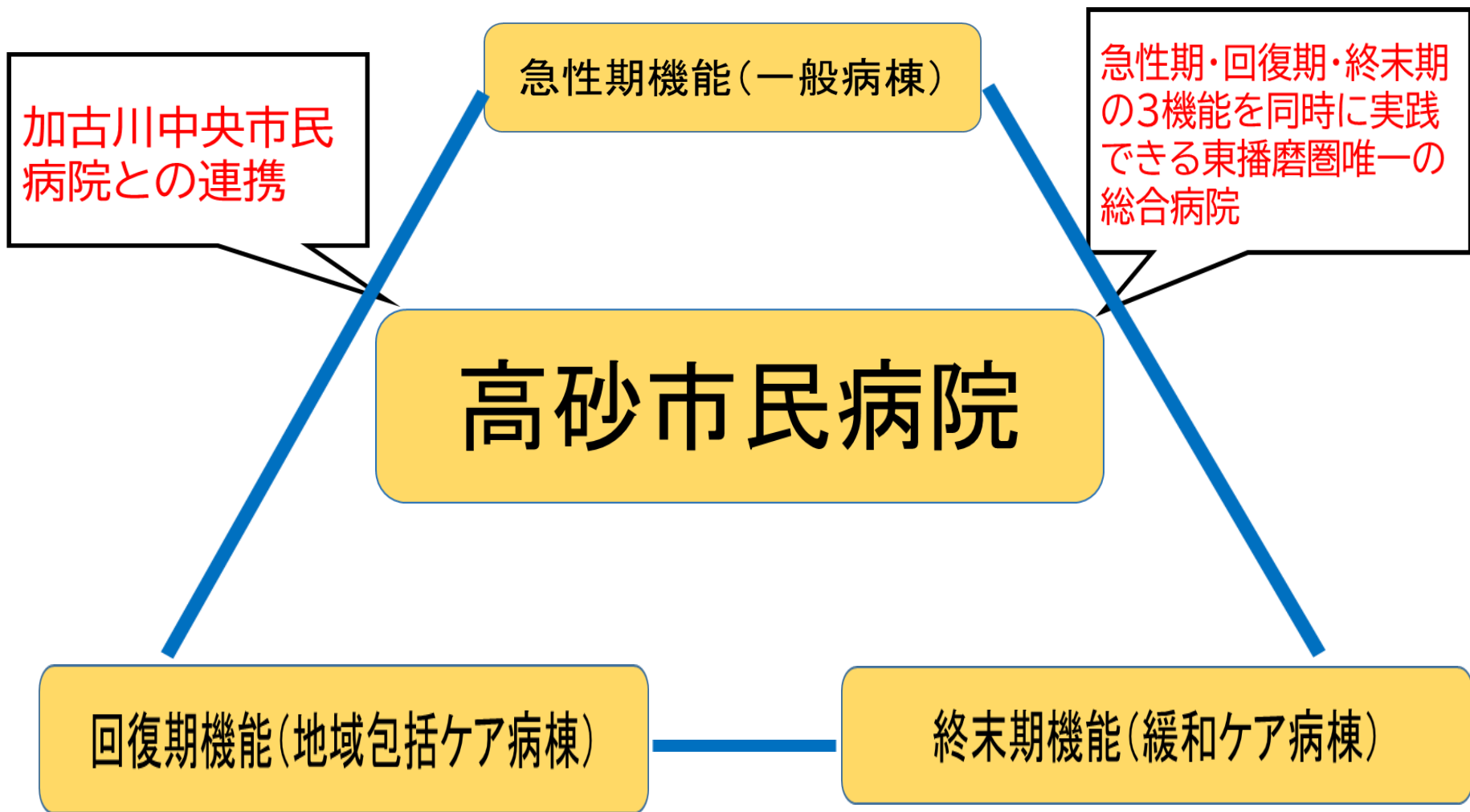
高砂市民病院訪問看護ステーションの開設

ご自宅で療養生活を送られている要介護の方、治療・医療機器の使用が必要な方へ当院看護師が訪問し、暮らしをサポート

「高砂市民病院・介護施設等連携の会」

- ・介護施設からの急変患者の受診体制の整備
- ・情報交換、合同研修会の開催

今後の市民病院の医療機能



市民病院の今後の課題

- 解消されない医師不足
(併せて医師の高齢化)
- 全国自治体病院の中小規模病院(200床未満)
の大半が赤字経営
- 病院本体の老朽化
⇒ 建て替えた場合、多額の費用が発生